

の中心線，線路の単線，複線等の分界点のキロ程，道路水路等の付換，人家の連なる箇所，行政区画の境界，縮尺および方位を示すことになっている。線路の中心線には200mごとにキロ程を記し，曲線の半径，交角，停留場の位置，名称および中心キロ程を記入することになっている。

縦断面図の縮尺は横は平面図と同一で，縦は $\frac{1}{200}$ 以上とし，中心線の地盤高，および施工基面高を20mごとに記し，軌道の長さ，橋梁・溝橋の径間および径間数，桁の種類および材質，停留場の名称および中心キロ程，交通ひん繁なる踏切道ならびに線路の勾配を記し，縮尺を示すことになっている（軌道法施行規則第8条）。（林 四郎）

せんろじゅうだんめんず 線路縦断面図 (英) profile 線路の中心線にそった断面図。地面の起伏や線路勾配(こうばい)を誇張して表現するために，横と縦の縮尺の比率を変えて図示するのが普通である。国鉄では線路選定には縮尺横 $\frac{1}{25,000}$ ，縦 $\frac{1}{2,500}$ が用いられ，線路の設計には縮尺横 $\frac{1}{2,500}$ ，縦 $\frac{1}{400}$ の図面が使

用されている。

図にはキロ程，勾配，勾配の交点高，地盤高，施工基面高，築堤高，切取深，線路の曲線等が数字で記載され，おもな構築物の位置・名称・延長・大いさ等が引出して示されており線路の性質が一覧できる。図面は起点を左側にとり，右に向って読図するよう作図され，距離は線路起点が，高さは東京湾平均海面が基準となっている。（高橋浩二）

せんろしゅべつ 線路種別 (英) class of track 国鉄においては日本国有鉄道建設規程第2条によってその線路区間を甲線・乙線および丙線の3種類に区別している。この3つの区分を線路種別と称する。

これら線路種別区分の目安としては，一応主要幹線その他重要な線路を甲線，地方線およびこれに準ずべき程度の線路を丙線，この両者の中間に位すべき程度の線路を乙線としているが，そのほかにも輸送量・速度・運転状況および軍事上の関係等をも考慮し，また将来の情勢の変化をも予想している。日本国有

